

令和5年度 学校経営環境分析書

蒲川中学校区 校番 22 学校名 蒲川中学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	<p>O (支援的要因)</p> <p>【地域・保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域及び保護者は概ね協力的であり、教育活動への理解と支援を得られている。 ○地域の方は学校を大切に思っているとともに、子どもの成長を楽しみに支援してくれている。 ○わが子は地域が好きだと思ふ保護者が80%を越えている。 ○自然や文化、伝統、教育施設などに恵まれており、「ふるさと学習」などで活用できる資源が多い。 ○小学校と中学校が同じ敷地であり、合同行事などに取り組みやすい。 	<p>S (強み)</p> <p>【学校組織】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒とかがかわる時間が多く、状況を把握しながら、個に応じた指導などを行いやすい。 ○学年を越えた情報共有などを行いやすい。 ○新しい取組を企画・実行しやすい。 <p>【生徒の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○異学年での活動を実施しやすく、様々な意見に触れたり、貴重な体験をすることができたりすることが多い。 ○一人一人に役割を与えられ、達成感を得る機会が多い。 ○協力し助け合って活動することができており、落ち着いて生活している。 	<p>支援的要因と強みを生かした活動・取組は</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の自然や文化、伝統、教育施設を活用した「ふるさと学習」を行い、地域での活動を発信する。 ○子どもの問いを生かした「考える授業づくり」を推進する。 ○「課題発見・解決学習」や「教えて考えさせる授業」による確かな学力の定着を目指した授業改善を図る。 ○ICT機器を活用した「個別最適な学び」及び家庭学習を充実する。 ○AIドリル、ドリルタイム、100問テスト等によって確かな学力を定着させる。 ○小学校等と連携し、自己肯定感を高める活動を推進する。
	<p>T (阻害的要因)</p> <p>【地域・保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少子高齢化が進行し、児童・生徒数の減少は深刻である。 ○少人数であるが故に問題が発生すると、生徒間だけでなく保護者間の人間関係の修復や改善に困難な場面が見られることがある。 ○保護者同士の問題が生徒の人間関係に影響したり、問題解決に学校が関わったりしなければならぬなど、保護者に理解や協力を得ることが困難な場面が見られる。 ○校外学習や部活動の際、交通手段が限られるとともに、交通費などの経費が高く、活動が制限されることがある。 	<p>W (弱み)</p> <p>【学校組織】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教員一人当たりの業務の種類が多く、業務の偏りが生じやすい。 ○生徒を過剰に支援することによって、主体性の育成を阻害することに繋がっている。 <p>【生徒の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少人数のため人間関係が固定化されやすく、問題が生じると人間関係の修復が困難である。 ○互いに切磋琢磨することが少なく、特に学力において力を伸ばし切れていない。 ○教員や仲間依存する傾向が強く、主体性やリーダーシップが育ちにくい。 	<p>阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業や部活動、学校行事など日々の活動について、生徒自身が目的や意義を考え、その取組を振り返り評価することで、今後の取組をより良くするサイクルを目指す。 ○人間関係をより良くするために、学級や部活動において自己開示できる集団づくりを目指し、自己肯定感を高める取組やソーシャルスキルトレーニングなどを積極的に取り入れる。

2 重点課題

- 積極的な生徒指導を推進し、「自尊感情・自己肯定感の育成」、「自己開示できる集団づくり」を目指す。
- 子どもの問いを生かした「考える授業づくり」を推進するとともに、ICT機器を活用した「個別最適な学び」及び家庭学習を充実させることで、確かな学力の定着を図る。(進路選択できる学力)
- 「授業のユニバーサルデザイン化」など特別支援教育の視点、「個に応じた支援と居場所づくり」など生徒指導の視点を重視し、「個を大切に支援の充実」を目指す。